2021年3月期　決算説明

2021年5月

日本カーバイド工業株式会社

© NIPPON CARBIDE INDUSTRIES CO.,INC. All Rights Reserved

アジェンダ

1. 2021年3月期決算の概要

2. 2022年3月期通期業績予想

3. 中期経営計画「NCI-2021」進捗状況

4. 付属資料

1. 2021年3月期決算の概要

サマリー【連結損益計算書】

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、減収減益
- 売上高は前期比9.6%減の▲4,467百万円だったものの、電子関連製品が好調に推移したことや、原材料価格の下落、コスト削減などにより、営業利益の減益幅は6.6%減の▲168百万円
- 為替差益や投資有価証券の売却益などにより、経常利益と当期純利益は増益

単位：百万円　（1株あたり純利益除く）

	2020年3月期	2021年3月期	前期比		2021年3月期	業績予想比	
	実績	実績	増減額	増減率	業績予想	増減額	増減率
売上高	46,699	**42,231**	▲ 4,467	▲9.6%	42,500	▲ 269	▲0.6%
営業利益	2,557	**2,388**	▲ 168	▲6.6%	1,200	1,188	+99.0%
営業利益率	5.5%	**5.7%**	—	+0.2ポイント	2.8%	—	+2.9ポイント
経常利益	2,817	**2,852** ※1	35	+1.3%	1,250	1,602	+128.2%
当期純利益	1,741	**2,406** ※2	664	+38.1%	600	1,806	+301.0%

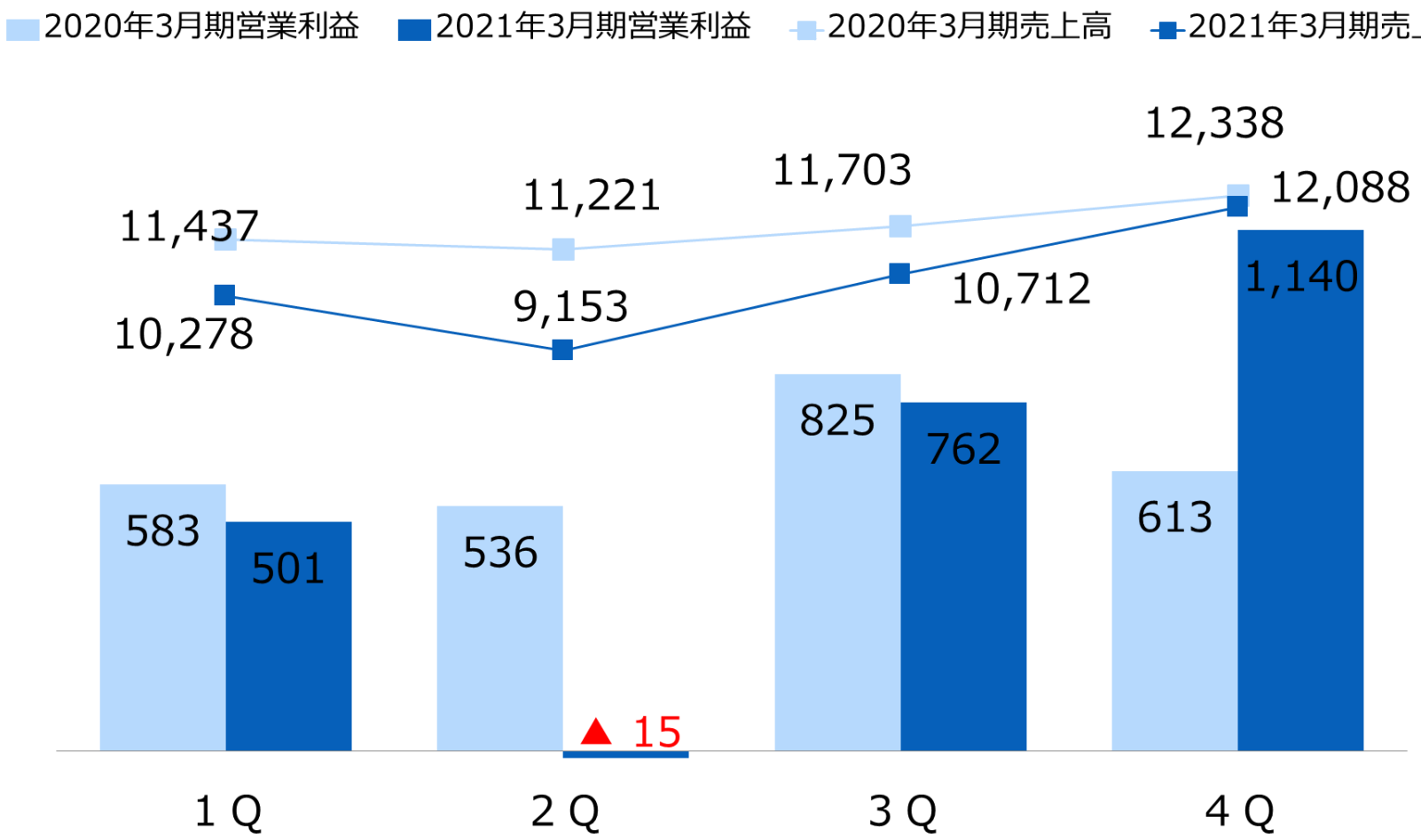
2020年5月20日に公表した2021年3月期業績予想を2021年2月5日および2021年4月26日に修正しているが、本表では2020年5月20日に公表した数字を「業績予想」として適用

※1 為替差益＋285、助成金＋168を含む　　※2 投資有価証券売却益＋825を含む

四半期業績トレンド

2Qはコロナ禍の影響を大きく受けたものの、3Q以降は回復傾向にあり、
4Qの営業利益は前年同期を超えるレベルにまで回復

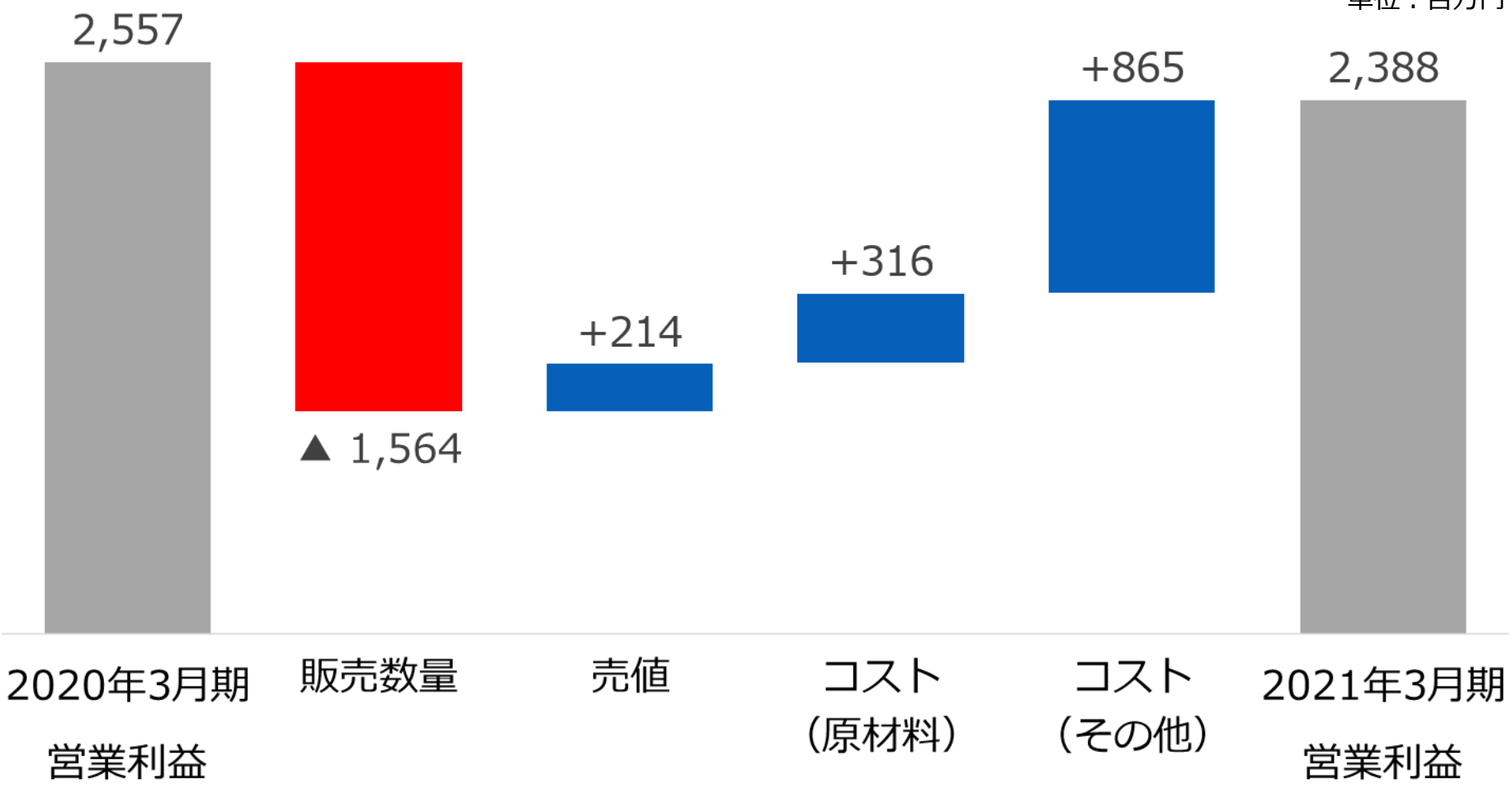
単位：百万円



営業利益増減要因分析

前期比　168百万円減益

単位：百万円



セグメント別業績

単位：百万円

		2020年3月期	2021年3月期	前期比		コロナ禍影響額
		実績	実績	増減額	増減比	
電子・機能製品	売上高	18,434	**17,652**	▲ 782	▲4.2%	▲ 750
	営業利益	1,646	**1,941**	295	+17.9%	▲ 200
フィルム・シート製品	売上高	15,614	**13,826**	▲ 1,788	▲11.5%	▲ 2,300
	営業利益	689	**11**	▲ 678	▲98.4%	▲ 1,300
建材関連	売上高	9,259	**8,397**	▲ 862	▲9.3%	▲ 300
	営業利益	491	**515**	24	+4.9%	▲ 100
エンジニアリング	売上高	4,894	**4,035**	▲ 859	▲17.6%	▲ 450
	営業利益	128	**76**	▲ 52	▲40.6%	▲ 200
連結調整	売上高	▲ 1,503	**▲ 1,680**	-	-	-
	営業利益	▲ 397	**▲ 156**	-	-	-
連結合計	売上高	46,699	**42,231**	▲ 4,467	▲9.6%	▲ 3,800
	営業利益	2,557	**2,388**	▲ 168	▲6.6%	▲ 1,800

セグメント別状況　電子・機能製品事業

単位：百万円	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比 増減額	前期比 増減比
売上高	18,434	**17,652**	▲ 782	▲4.2%
機能化学品	2,834	**2,793**	▲ 41	▲1.4%
機能樹脂	10,286	**8,892**	▲ 1,394	▲13.6%
電子素材	5,314	**5,967**	653	+12.3%
営業利益	1,646	**1,941**	295	+17.9%

機能化学品　減収増益

＋ 半導体市場の好況により、フォトレジスト用や表面処理用添加剤の出荷が増加

＋ PCR検査用や医薬品用原薬の出荷が増加

－ コロナ禍の影響を受け、主に塗料用ビニルエーテルなどの出荷が減少

機能樹脂　減収減益

＋ ナフサ価格の下落により原価率が改善

＋ 電子材料向けバインダー樹脂の出荷が増加

－ コロナ禍の影響を受け、医療やトナー用樹脂、食器用メラミン樹脂の出荷が減少

電子素材　増収増益

＋ コロナ禍によるパソコン需要の回復や5Gなどの通信関連需要の拡大により、セラミック基板の出荷が増加

＋ 半導体市場の好況により、半導体用金型クリーニング剤の出荷が増加

セグメント別状況　フィルム・シート製品事業

単位：百万円	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比 増減額	前期比 増減比
売上高	15,614	**13,826**	▲ 1,788	▲11.5%
フィルム	2,728	**2,394**	▲ 334	▲12.2%
ステッカー	5,749	**4,601**	▲ 1,148	▲20.0%
再帰反射シート	7,137	**6,831**	▲ 306	▲4.3%
営業利益	689	**11**	▲ 678	▲98.4%

フィルム　**減収減益**

－ コロナ禍の影響を受け、自動車用や看板用マーキングフィルムの出荷が減少

ステッカー　**減収減益**

＋ ブラジルでは、主要お客様でのインハウスシェアを上げる事により収益を改善

－ コロナ禍の影響を受け、東南アジアでの二輪車や四輪車向け出荷が減少

再帰反射シート　**減収減益**

＋ 中国での標識用シートの出荷が増加

＋ ベトナムでナンバープレート市場に新規参入

＋ 法制化が進むインドでのナンバープレート用シートの出荷が増加

－ コロナ禍の影響を受け、欧州向けナンバープレート用シートの出荷が減少

セグメント別状況　建材関連事業

単位：百万円	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比 増減額	前期比 増減比
売上高	9,259	**8,397**	▲ 862	▲9.3%
営業利益	491	**515**	24	+4.9%

減収

＋ コロナ対策として換気が推奨されたことから、住宅用網戸材の出荷が増加

－ コロナ禍の影響を受け、マンションや戸建て住宅用手摺や笠木などのアルミ建材の出荷が減少

－ コロナ禍の影響を受け、住設用プラスチック押出製品の出荷が減少

増益

＋ アルミ地金価格の下落や、製造コストの低減と販売費用の抑制

セグメント別状況　エンジニアリング事業

単位：百万円	2020年3月期 実績	2021年3月期 実績	前期比 増減額	前期比 増減比
売上高	4,894	**4,035**	▲ 859	▲17.6%
営業利益	128	**76**	▲ 52	▲40.6%

減収

＋ 新規顧客の開拓などにより、バルブ部門の売上が増加

－ グループ会社の設備投資が遅れたことなどが影響し、工事部門・エンジニアリング部門の売上が減少

－ 国内大手製鉄会社の高炉停止などにより、エンジニアリング部門の売上が減少

減益

＋ 製造コストの低減と販売費用の抑制

【サマリー】連結貸借対照表

自己資本比率は42.2%、前期から2.3ポイント改善

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期	前期末比
現金及び預金	9,924	**12,985**	3,061
売上債権	14,549	**14,355**	▲ 194
棚卸資産	8,152	**7,994**	▲ 158
有形固定資産・無形固定資産	24,910	**25,162**	252
その他	3,707	**3,410**	▲ 297
資産合計	61,242	**63,906**	2,664
有利子負債	17,422	**18,195**	773
仕入債務	6,699	**6,200**	▲ 499
その他	11,159	**11,010**	▲ 149
負債の部	35,280	**35,405**	125
株主資本	18,265	**21,047**	2,781
その他の包括利益累計額	6,176	**5,897**	▲ 278
新株予約権	4	**2**	▲ 2
非支配株主持分	1,516	**1,553**	37
純資産の部	25,962	**28,500**	2,538
負債及び資本合計	61,242	**63,906**	2,664
D/Eレシオ	0.67	**0.64**	▲ 0.03
自己資本	24,441	26,945	2,504
自己資本比率	39.9%	42.2%	+2.3ポイント

連結キャッシュフロー計算書

フリーキャッシュフローは2,742百万円（前期比509百万円増加）

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期	前期比
税金等調整前当期純利益	2,653	**3,304**	651
減価償却費	2,008	**2,001**	▲ 7
運転収支	▲ 1,907	**▲ 278**	1,629
その他	▲ 18	**▲ 1,237**	▲ 1,219
営業活動によるキャッシュフロー	2,736	**3,790**	1,053
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 503	**▲ 1,047**	▲ 544
フリーキャッシュフロー	2,233	**2,742**	509
有利子負債の増減額	77	**848**	771
配当金の支払額	▲ 327	**▲ 328**	▲ 1
新株予約権の行使による株式の発行	42	**702**	660
その他	▲ 217	**▲ 188**	29
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 425	**1,034**	1,459
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 54	**▲ 85**	▲ 31
現金及び現金同等物の増減額	1,754	**3,691**	1,937

設備投資・減価償却・研究開発

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期
設備投資額	1,769	**2,493**
電子・機能製品	636	**873**
フィルム・シート製品	260	**776**
建材関連	87	**113**
エンジニアリング	33	**125**
共通・調整	752	**604**
減価償却費	2,008	**2,001**
電子・機能製品	639	**620**
フィルム・シート製品	687	**652**
建材関連	141	**149**
エンジニアリング	98	**57**
共通・調整	441	**519**
研究開発費	2,024	**2,019**

主な設備投資案件

- ベトナムでの技術センターの設立と生産ラインの合理化（約5億円）
- タイでのセラミック基板設備増強（約5億円）
- 魚津工場土地購入（約5億円）
- 研究開発センターでの分析機器更新（約1億円）

2. 2022年3月期通期業績予想

2022年3月期　連結業績予想

- 業績は回復傾向にあり増収、営業利益は増益見込
- 新型コロナウイルス感染拡大の業績への影響は不透明であり、注視していく必要あり

単位：百万円

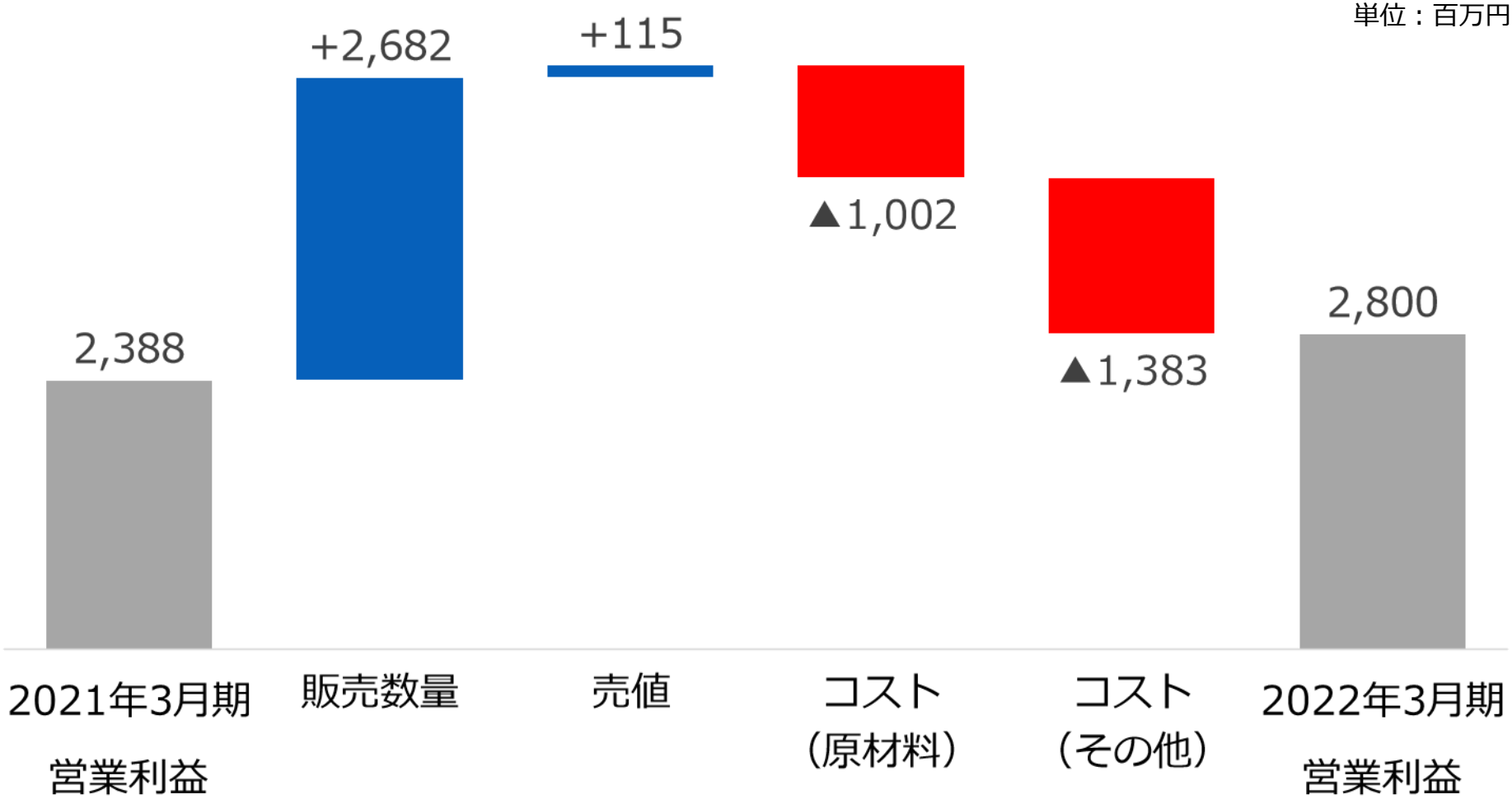
	2021年3月期		2022年3月期		前期比	
	実績	利益率	業績予想	利益率	増減額	増減率
売上高	42,231	—	**48,000**	—	5,769	+13.7%
営業利益	2,388	5.7%	**2,800**	**5.8%**	412	+17.2%
経常利益	2,852 ※1	6.8%	**2,700**	**5.6%**	▲ 152	▲5.3%
当期純利益	2,406 ※2	5.7%	**1,700**	**3.5%**	▲ 706	▲29.3%
1株当たり配当	40円	—	**50円** **（中間25円・期末25円）**	—	＋10円	+25.0%

※1 為替差益＋285、助成金＋168を含む　　※2 投資有価証券売却益＋825を含む

営業利益増減要因分析

前期比　412百万円増益

単位：百万円



セグメント別　業績予想

単位：百万円

		2021年3月期	2022年3月期	前期比	
		実績	業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	17,652	**20,000**	2,348	+13.3%
	営業利益	1,941	**2,200**	259	+13.3%
フィルム・シート製品	売上高	13,826	**16,000**	2,174	+15.7%
	営業利益	11	**600**	589	+5454.5%
建材関連	売上高	8,397	**9,000**	603	+7.2%
	営業利益	515	**500**	▲ 15	▲2.9%
エンジニアリング	売上高	4,035	**5,000**	965	+23.9%
	営業利益	76	**100**	24	+31.6%
連結調整	売上高	▲ 1,680	**▲ 2,000**	-	-
	営業利益	▲ 156	**▲ 600**	-	-
連結合計	売上高	42,231	**48,000**	5,769	+13.7%
	営業利益	2,388	**2,800**	412	+17.2%

セグメント別　事業見通し

電子・機能製品	機能化学品	• 設備投資により半導体向けフォトレジスト用や表面処理用添加剤の出荷が増加 • PCR用原薬などの医薬品用途の出荷が引き続き好調
	機能樹脂	• 中国での光学フィルム用粘着剤の販売が本格化し、出荷が増加
	電子素材	• 電子部品市場の好況が継続し、セラミック基板、半導体用金型クリーニング材の出荷が増加 • タイでの設備投資により、セラミック基板の出荷数量が増加
フィルム・シート製品	フィルム	• 需要が回復し、マーキングフィルムやレーザーラベルの出荷が増加 • 中国での環境配慮への動きより、環境にやさしい包装フィルムの出荷が増加
	ステッカー	• インドネシア、タイ、ベトナムなどで需要が回復、二輪車や四輪車向け出荷が増加
	再帰反射シート	• 欧州で需要が回復、ナンバープレート用シートの出荷が増加 • 中国での標識用や、ベトナムでのナンバープレート用シートの出荷が引き続き増加 • 米国、ブラジルでのナンバープレート用シート市場の新規開拓
建材関連		• マンション建設の回復などにより、手摺や笠木などのアルミ建材の出荷が増加 • アルミ地金価格の上昇によるコストへのマイナス影響
エンジニアリング		• グループ会社の大型案件が計画されており、工事部門・エンジニアリング部門の売上が増加 • 主要なお客様への販売体制強化により、工事部門の売上が増加 • 国内大手製鉄会社の高炉停止により、エンジニアリング部門における売上が引き続き低迷

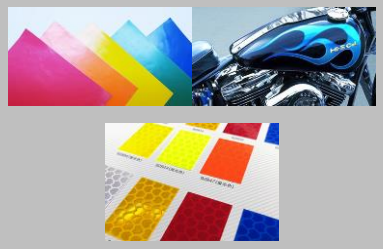
3. 中期経営計画「NCI-2021」進捗状況

2025年のありたい姿

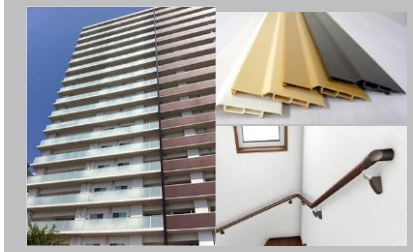
コア事業のうち
高付加価値ビジネスを成長戦略とし
未来の社会に幅広く貢献する
持続的成長可能な化学系企業グループ

電子・機能製品事業

フィルム・シート事業



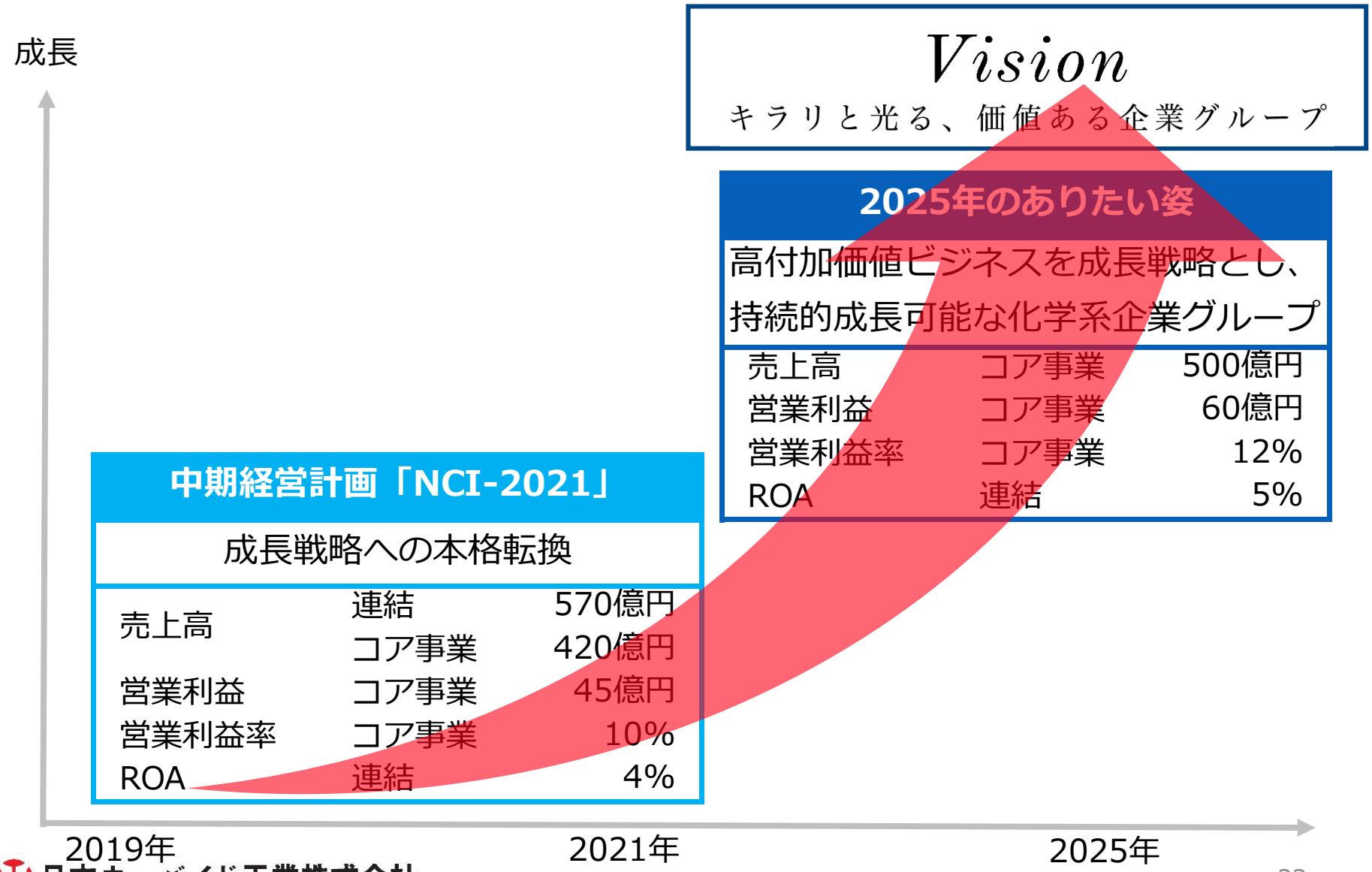
建材関連事業



エンジニアリング事業

コア事業

「2025年のありたい姿」に向けて



中期経営計画　スケジュールの再検討

「2025年のありたい姿」に向けた基本戦略は維持

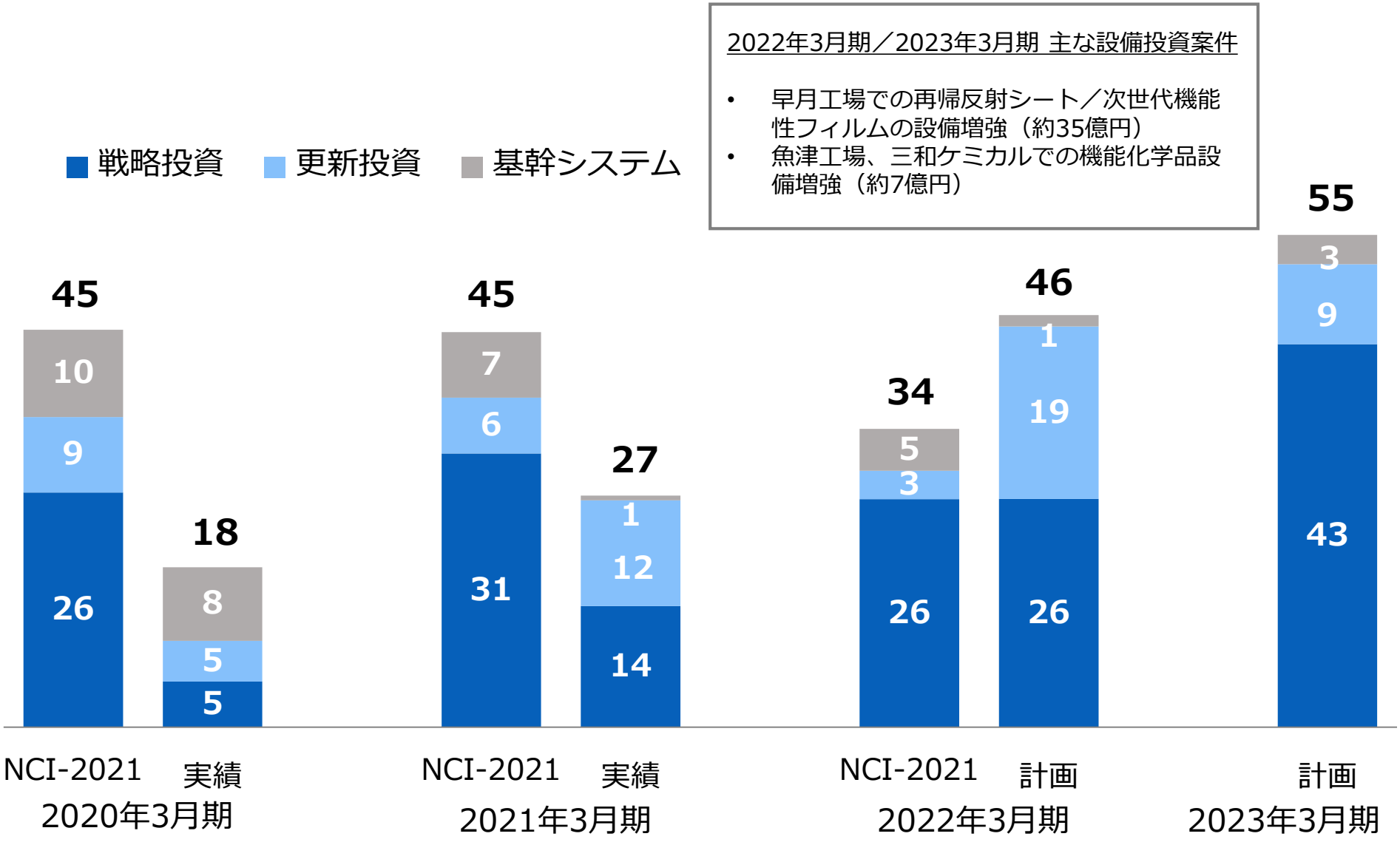
「NCI-2021」や「2025年のありたい姿」の
数値目標の達成時期については、次期中期経営計画
（2022年度から2025年度までの4か年計画）
策定の中で再検討の予定

「NCI-2021」数値目標との差異見込

		NCI-2021（2022年3月期）	2022年3月期 業績予想	NCI-2021比	コロナ影響額
売上高	連結	570億円	**480億円**	▲90億円	▲52億円
	コア事業	420億円	**360億円**	▲60億円	▲36億円
営業利益	コア事業	45億円	**28億円**	▲17億円	▲12億円
営業利益率	コア事業	10%（化学業界の平均）	**7.8%**	▲2.2ポイント	
ROA	連結	4%	**2.7%**	▲1.3ポイント	

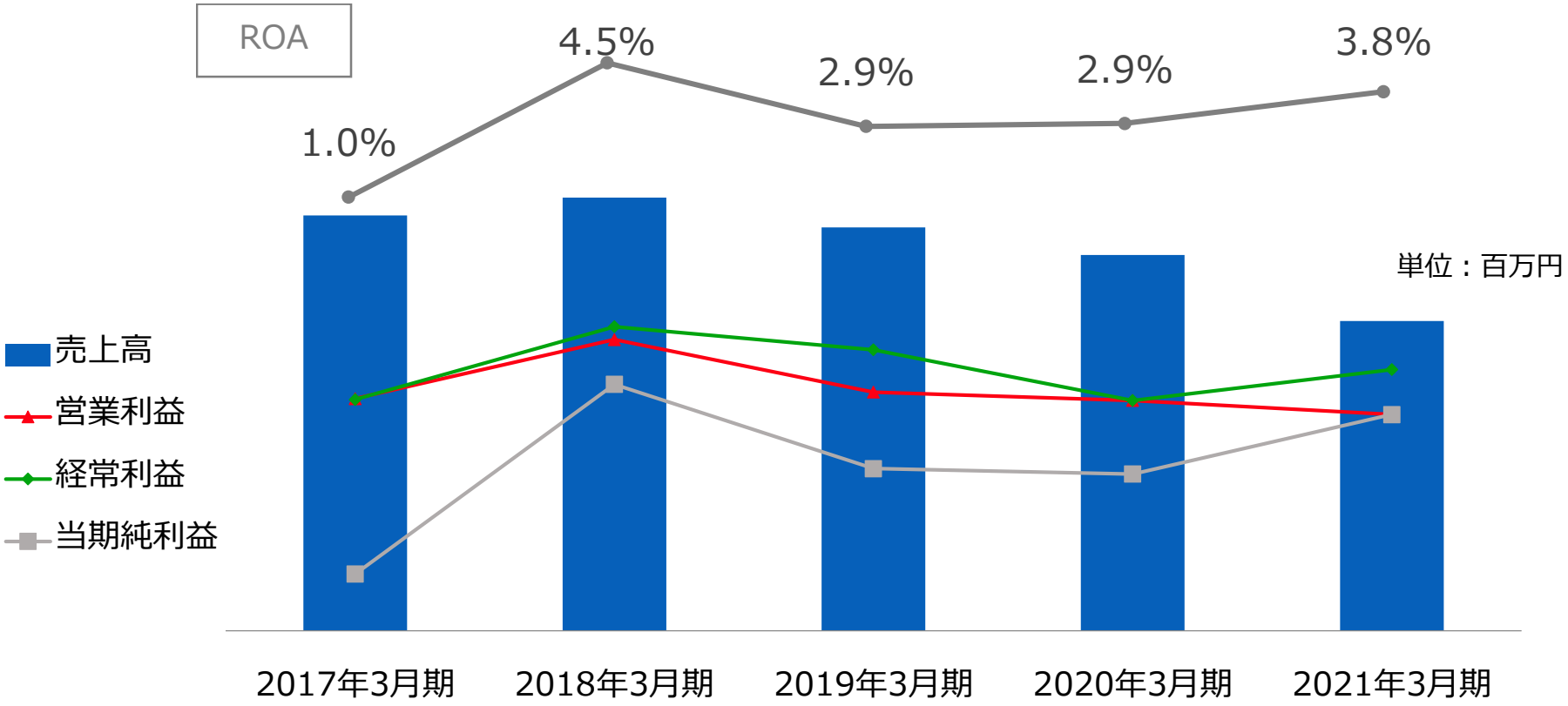
本表における「NCI-2021」とは、2019年5月27日「2019年3月期決算説明会」で発表した数値

投資計画


戦略投資
更新投資
基幹システム
2022年3月期／2023年3月期 主な設備投資案件
• 早月工場での再帰反射シート／次世代機能性フィルムの設備増強（約35億円）
• 魚津工場、三和ケミカルでの機能化学品設備増強（約7億円）
45
10
9
26
18
8
5
5
45
7
6
31
27
1
12
14
34
5
3
26
46
1
19
26
55
3
9
43
NCI-2021
実績
2020年3月期
NCI-2021
実績
2021年3月期
NCI-2021
計画
2022年3月期
計画
2023年3月期

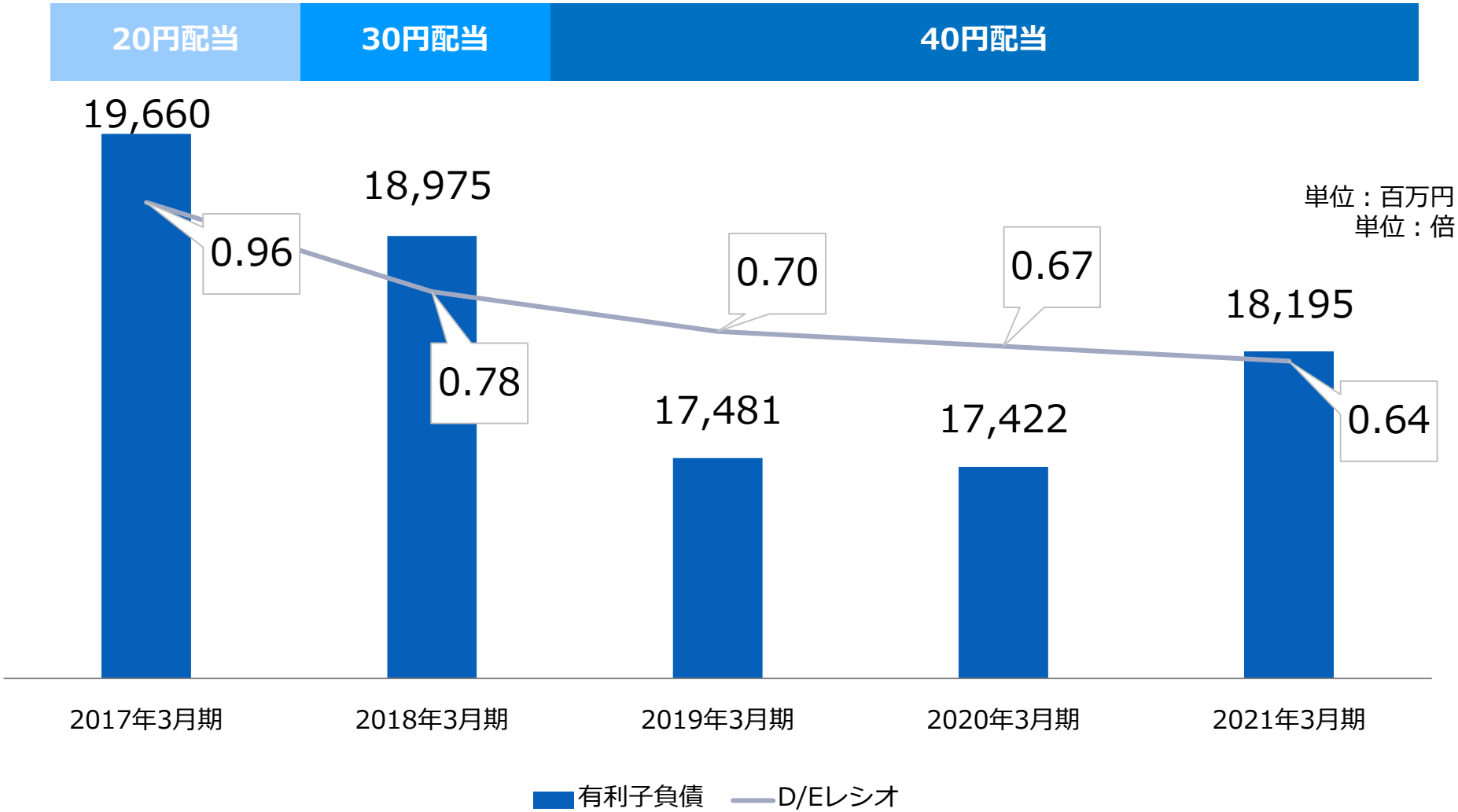
４．付属資料

連結業績の推移



	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
売上高	49,509	50,761	48,651	46,699	42,231
営業利益	2,577	3,232	2,649	2,557	2,388
営業利益%	5.2%	6.4%	5.4%	5.5%	5.7%
経常利益	2,568	3,375	3,119	2,817	2,852
経常利益%	5.2%	6.6%	6.4%	6.0%	6.8%
当期純利益	631	2,736	1,800	1,741	2,406

有利子負債及び配当の推移



※配当は1株あたり。2017年10月1日付で普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施。2017年3月期以前の1株当たり配当金額は当該株式併合を考慮して換算した金額を記載

アナリスト／機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部　広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。 本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。 また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。